

広島市立安佐市民病院を受診された患者様へ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください

研究課題名	緊急入院時の持参薬取り扱い方法の現状と課題
研究責任者 (所属科名)	檜原 淳 (診療統括部部長補佐(外科)兼TQMセンター長)
本研究の目的・意義	近年、多種の薬剤の持ち込み、後発薬品の使用、医療技術・製剤技術の進歩による変則的な服用方法など薬剤管理の複雑性は増している。入院後薬剤使用による副作用の観点からは常用薬の鑑別は必要である。薬剤師による鑑別、面談後に持参薬報告を記録し持参薬指示を入力、2020年11月より、処方が必要な場合は持参薬報告まで院内処方とする新システムを検討し介入を開始した。その緊急入院時の持参薬持ち込み患者に対し新システムの適用後の有用性と課題を明確にする。
調査方法・研究期間	後ろ向き研究 データ収集期間：2020年11月と2021年5月 研究期間：承認日から2021年9月30日までを予定しています。 同意は取得せず、オプトアウトにより拒否権を保護します。
該当資料・データ	★対象となる患者様 2020年11月と2021年5月に当院に緊急入院された患者様 ★利用する情報 電子カルテに記載のある入院日、入院時間、診療科、持参薬報告日、持参薬指示日、入院から開院日までの初回処方の有無と処方日数、持参薬剤の有無と種類、薬剤記録、処方記録を利用します。
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名等の患者さまを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は利用しません。
共同研究機関	なし
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	電話：082-815-5211 内線 2117 (平日：9：30-16：15) 担当者：前川三奈(TQMセンター：看護師)
備考	